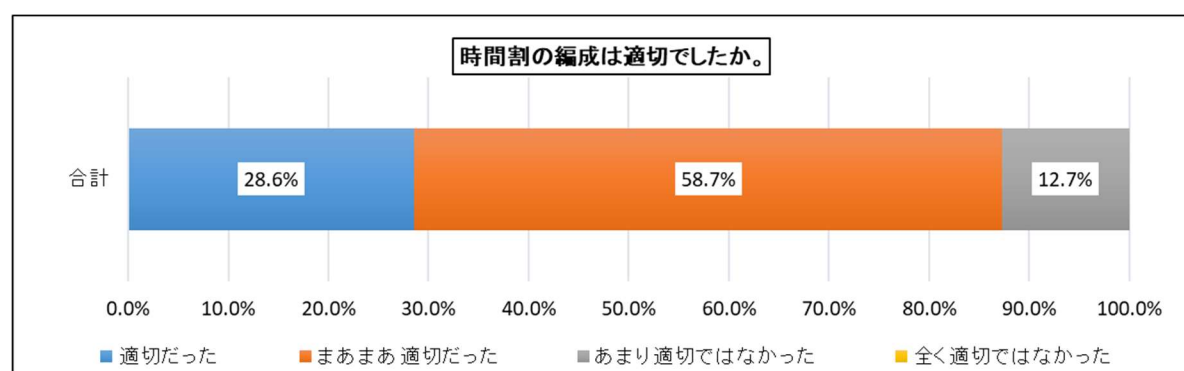
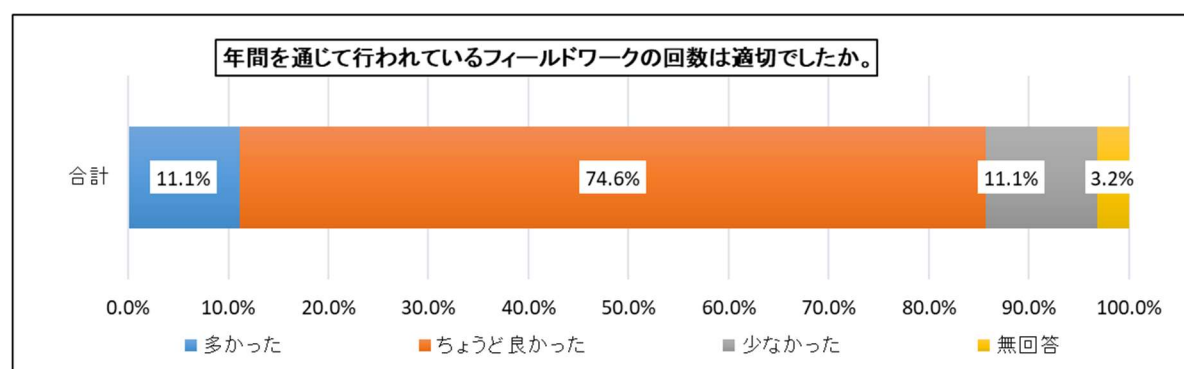
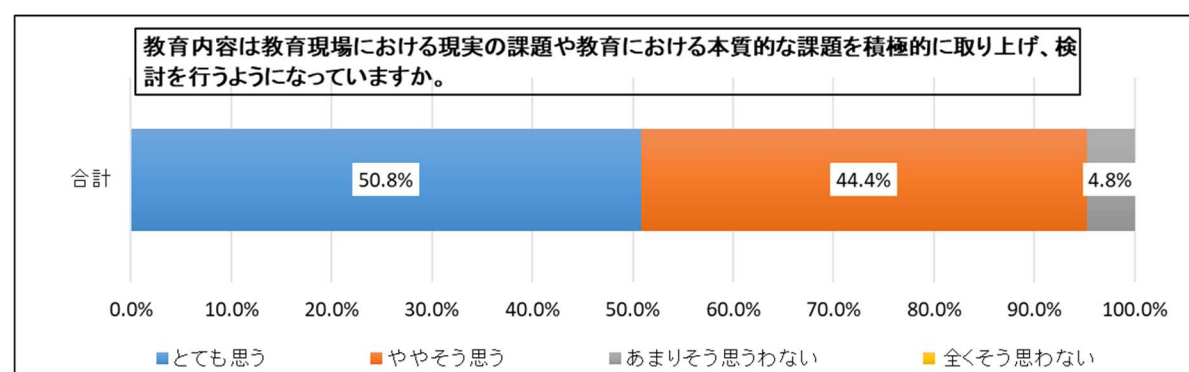
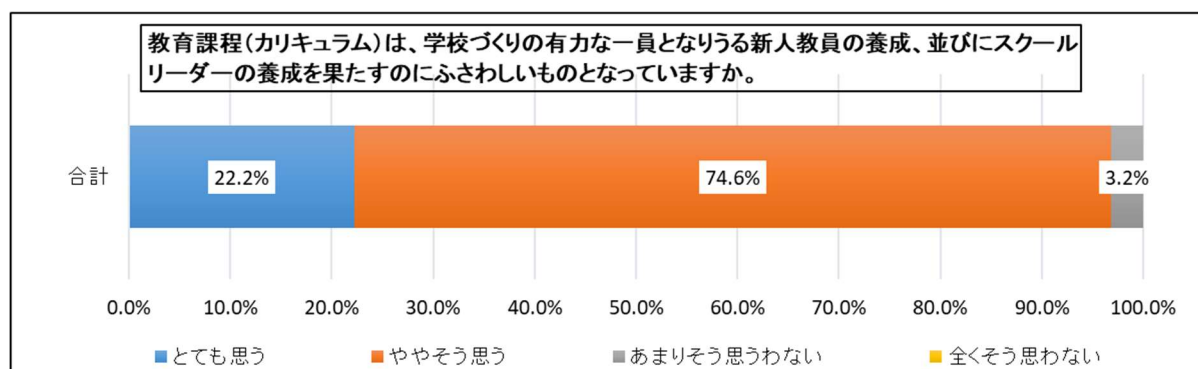


2018年度「研究科アンケート」

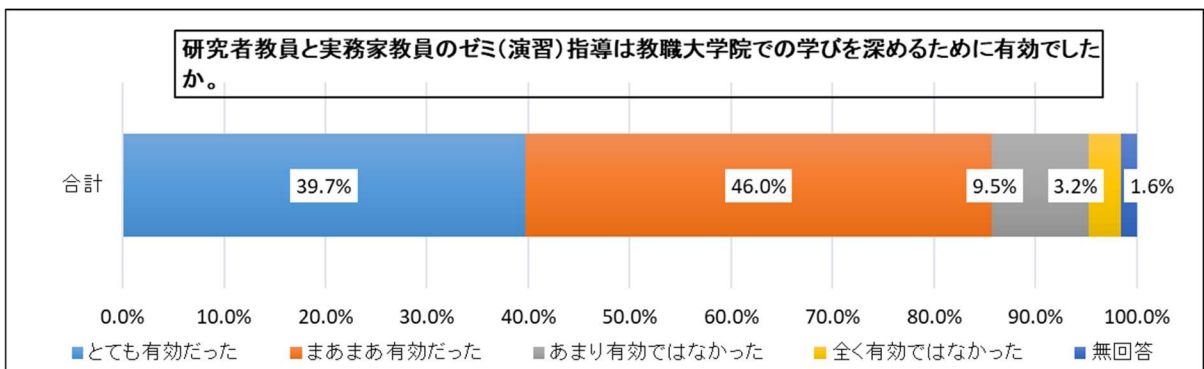
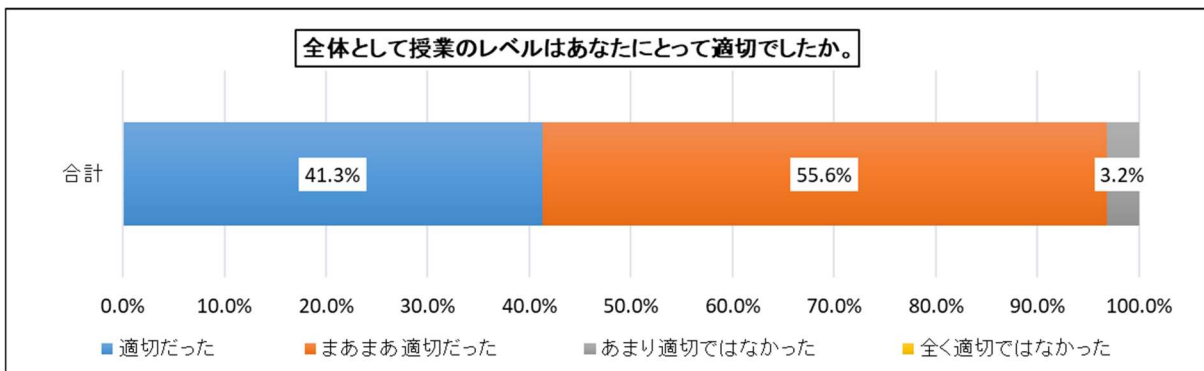
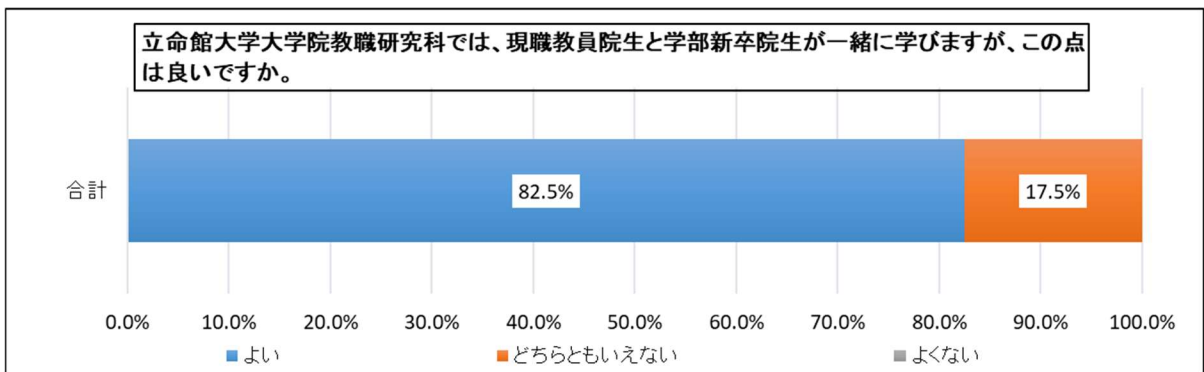
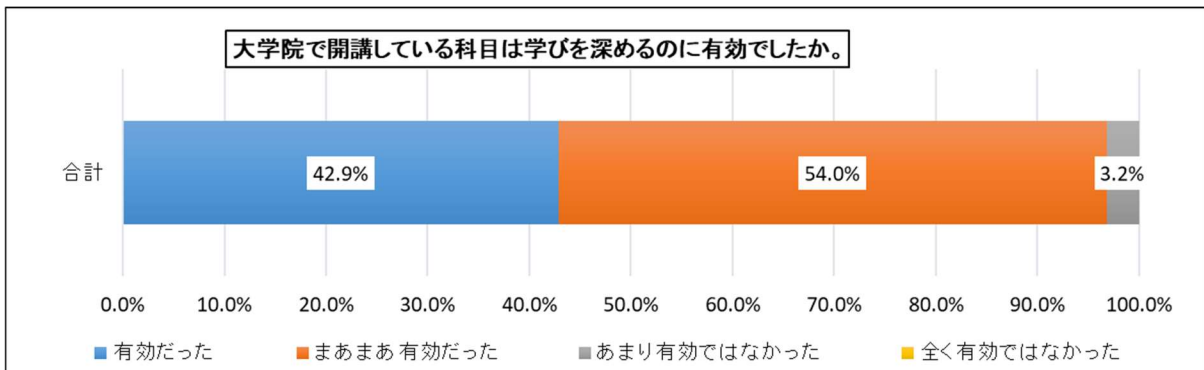
(1) 教育課程について



「教育課程について」は、おおむね良好である。時間割の編成があまり適切ではなかったと回答しているのは、現職院生が参加しやすい授業の時間割を求めるのと、現職院生が参加できるようにフィールドワークの時間帯を考慮して欲しいというものである。ま

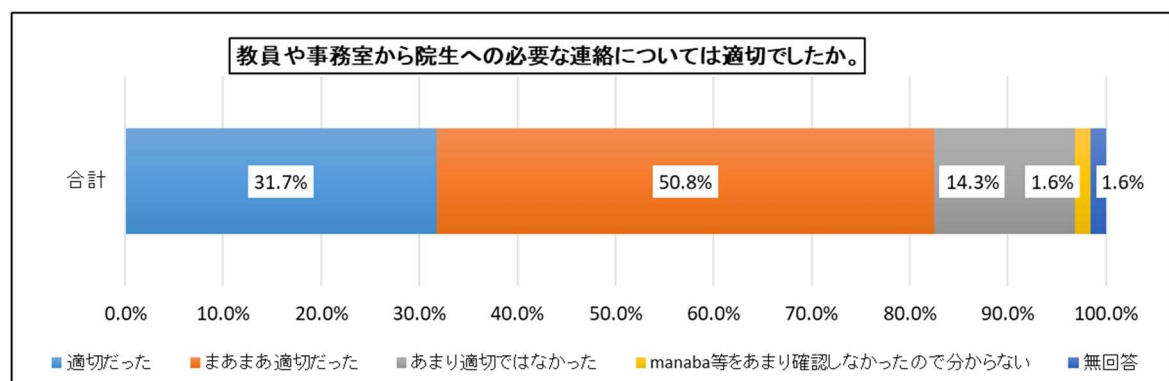
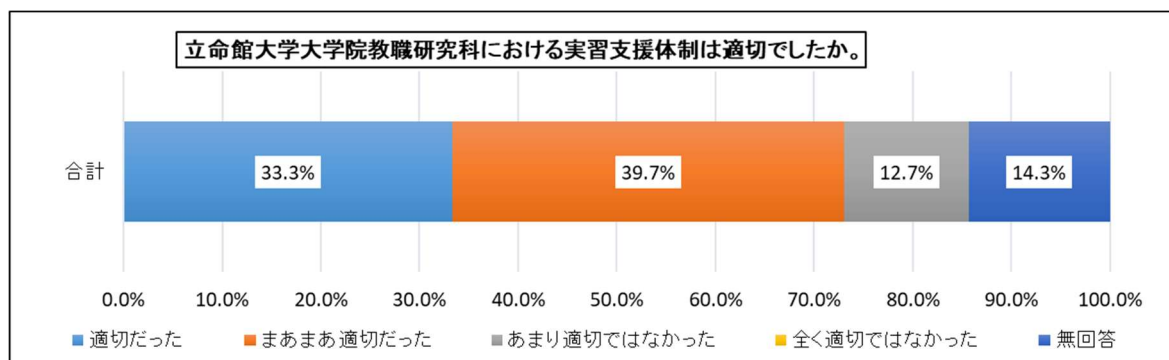
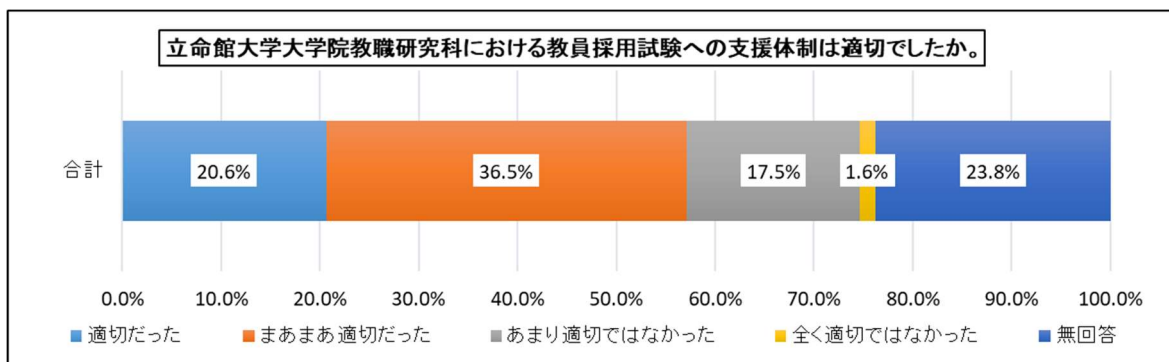
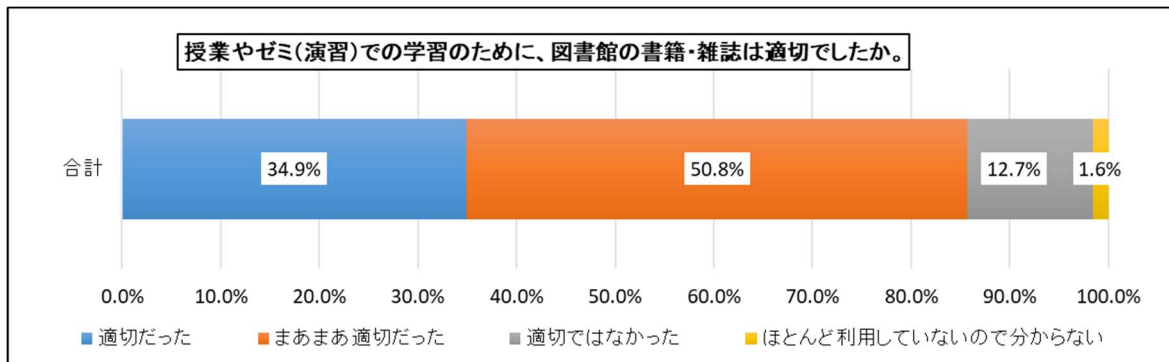
た、教科の専門性を高める科目を設置して欲しい、フィールドワークを増やして欲しいという声もあった。

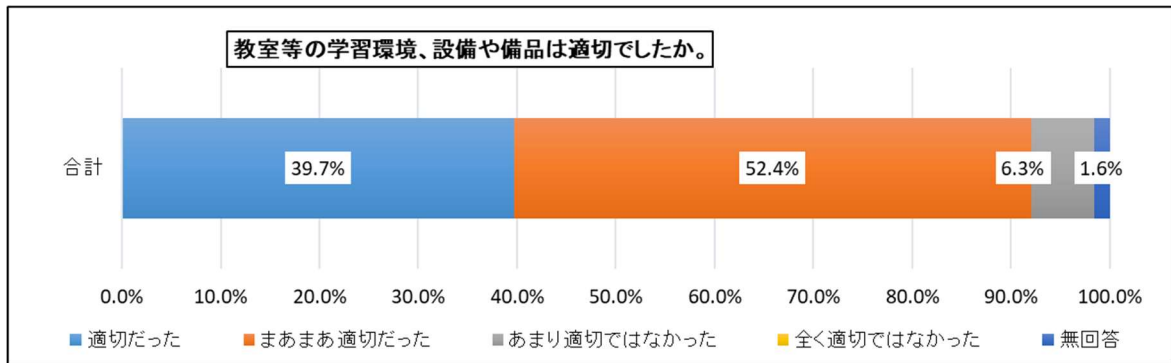
(2) 授業について



「授業について」の結果もおおむね良好である。研究者教員と実務家教員のゼミ（演習）指導は学びを深めるために有効であったかという設問に関して否定的な回答をした者は、院生がゼミを選択できないことに起因するものだと考えられる。

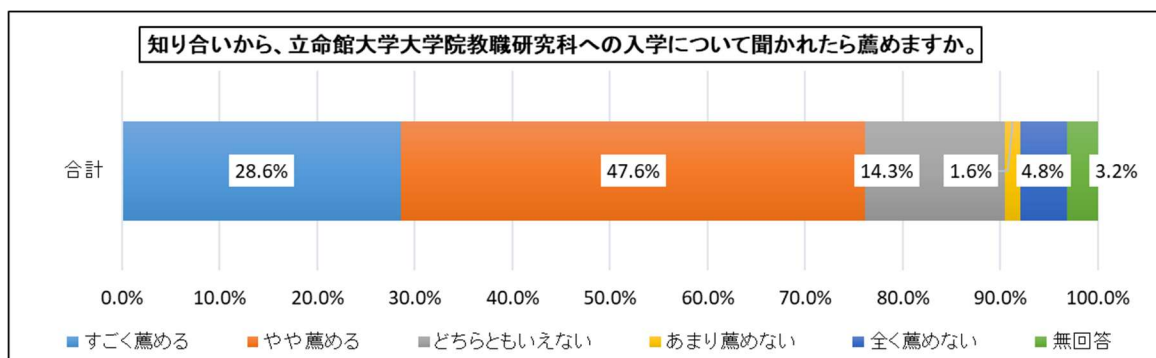
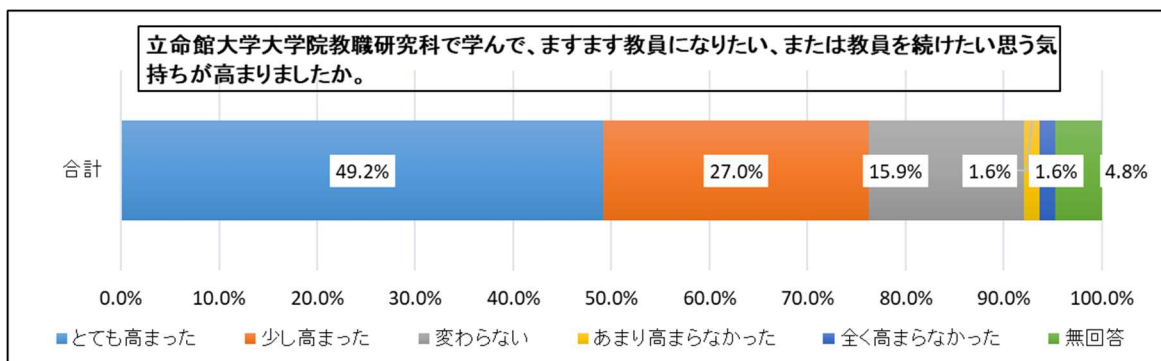
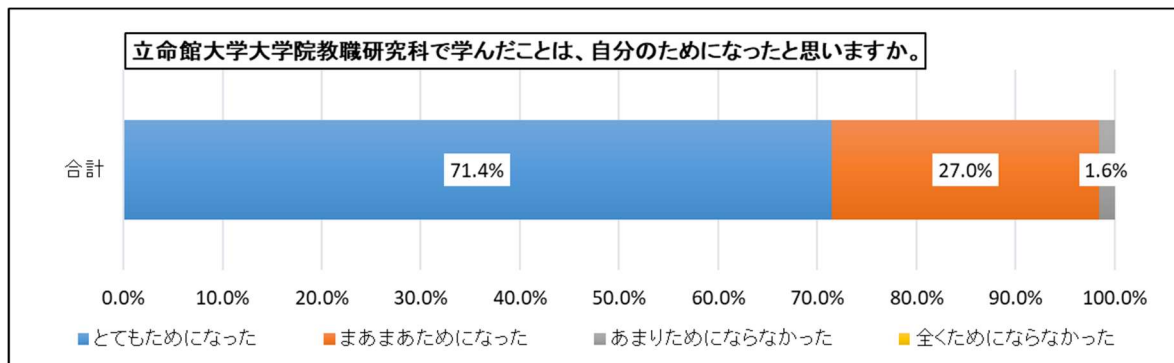
(3) 学生支援について





「学生支援について」の課題が多い。教員採用試験への支援体制について適切でなかったと回答している学生が比較的多い。現在、支援体制の充実を図っており、改善が見込まれる。無回答は採用試験に合格している者や現職院生であろう。実習支援体制についてあまり適切ではなかったという回答については、教職大学院の実習に関して実習校と共通理解が図れていないことが原因である。今後改善していく予定である。

(4) 全体を通して



ほぼすべての学生が、教職大学院の学びが自分のためになったと回答している。教員になりたい、教員を続けたいと思う気持ちに関して「変わらない」という回答は、元々それが高かったとも考えられるため、「あまり高まらなかった」「全く高まらなかった」の3.2%（2名）という回答を問題にすべきであろう。また、本学の教職大学への入学を薦めないという3名（4.8%）の回答も気になるところである。